



はていはてい HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

ハッピーワード
「あなたのこころに届きますように」

高浜市多文化共生コミュニティセンター「つなぐ」ではソーシャルメディア（SNS）を通して毎日、人の心に届くようなメッセージを配信しています。

生活する中でポジティブになる言葉に触れて自他共に幸せのサイクルができたらと思います。

言語も日本語だけではなく英語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、

インドネシア語等、各国の言葉で伝えています。ポジティブな言葉は、人とのきずなが深まりますね。



2070年度問題を抱え、この先どんどん移民を増やすべきだろうか？

公益社団法人トレーディングケア 代表理事 新美 純子

国立社会保障・人口問題研究所は、日本の人口が2070年には現在のおよそ7割にあたるおよそ8700万人にまで減り、外国人の占める割合は10.8%になるという推計を公表しました。(2023年4月)出生数は年々減少しているので、当然、労働力人口も減少の一途を辿ります。その中で日本は移民をどんどん受け入れるべきか否か?とNHKの記者さんから質問を受けました。

私の考えはもちろん否です。やはり、日本という国を理解し、ネイティブではなくても、ある程度日本語が理解できる人を適正に受け入れることが大切だと思っています。

先進国では、どの国も人手不足です。どの国もよい人材を獲得しようと条件を整え準備をしています。条件とは何か?1番は賃金です。アメリカの平均年収は700万(2021)と言われています。日本は平均年収は450万円。30年前は400万円と言われていますから、ほぼ変わらない状況です。一方アメリカでは2020年は660万円でしたから、年に40万も上がっている計算になります。経済が成長していれば、平均所得も上がり、物価は相対して上昇します。実際に、アメリカを始めとする先進国では平均賃金は上昇しています。しかし日本はどうでしょうか。記録的な円安が進み、“賃金は変わらないまま、物価が上がる”という現象で私たちの生活を苦しめています。

さて、そんな日本が他の国と肩を並べて、人材確保ができるのでしょうか?非常に大きな問題を抱えていることを、私たち国民は理解しなければなりません。外国人の人たちを低賃金で雇用していたら、そのうちどの国からも見向きもしてもらえないなります。経済を良くしていく事は先決ですが、私たち一人一人ができる事は、今、日本に住んでいる外国の人たちを優しく受け入れ、日本人と対等に、そして全く同じに見ていかなければいけないと思います。草の根的に日本ファンを作る事が、この先の日本が選ばれる国になる最大の武器ではないかと私は思っています。

～地域の高齢者と交流しよう～

日本語教師 鶴見陽子

先日、第11期生の入国後講習が終わりました。最初は自信がなく不安そうな様子でしたが、最後の方は次に来た実習生に先輩として色々なことを教えてくれました。「日本ではゴミのルールが違うよ。」「自転車の鍵はきちんとかけて、と教えました。」など話す姿を見て、2か月間の成長を感じました。

講習では「地域行事に参加する」という勉強があります。今回は高浜市吉浜町の「花まつり」にかけました。そこで地域のバディさんに町の歴史を紹介してもらひながらスタンプラリーをしました。ミッションとして「町の人に吉浜町のいいところを聞いてください」と伝えました。実習生の皆さんには緊張していましたが、勇気を出して町の高齢者に声をかけ、一生懸命話を聞いていました。また、ほかのミッションもわからないことを町の人に質問しました。実習生は「お年寄りと話して、楽しかったけどあまり聞き取れませんでした。」「日本のお年寄りはとても元気で驚きました」という感想を話していました。



インドネシアで勉強してきた日本語と、日本で普段私たちが使う日本語には違いがあります。年代や地域によっても違います。実習生にはいろいろな人と話をして、試行錯誤しながら、実際に使う生きた日本語も学んでほしいと考えています。



ホンさんの驚きNIPPON滞在記



日本ではご飯を食べる前のあいさつは手をあわせて「いただきます」を一回言います。ベトナムでは一人一人にあいさつをします。

「お父さんいただきます、お母さんいただきます、お姉さんいただきます・・・」という感じです。長そうですね。でも文化なので慣れました。また一人一人に名前を言ってあいさつをすることで、関係がより深くなります。

日本ではみそ汁というスープがよくあるけど、ベトナムではありません調味料を入れずに、そのまま野菜の茹で汁を飲むことがあります。野菜の茹で汁には旨味と栄養が溶けていて、飲んでみると意外と甘いことに気がつくと思います。

つなぐつながる楽しい話～夏至祭～



1年で一番日の長い日「夏至」に、北欧を中心に6月23日ごろに夏至を祝うイベント（夏至祭）があります。2019年公開の映画『ミッドサマー』にも出てきたキリスト教のお祝いです。デンマークではこの日をサンクト・ハンス・アフテンと呼びます。現代では公園など広い場所で暗くなるまで飲食をしたり踊ったり楽しく過ごし、暗くなるころに魔女の形をキャンプファイヤーに入れて燃やします。16~17世紀ごろは魔女（の罪を着せられた男女）が魔術の罪に問われ、生きたまま焼かれていた恐ろしいイベントでした。当時は魔法のハーブを入れて飲んでいたそうですが、現代では家族や友人と夕食やお酒を楽しむことに代わりました。

ほのか

編集後記

インスタグラム facebook
はじめました！ 最新情報は
こちら



@TSUNAGU_TAKAHAMA

3ヶ月に一度、多文化交流の一環で外国の料理を教えてもらう料理教室を実施しています。5月はブラジルの「パステル」を作りました。パステルは、カリカリのパイ生地の中にいろいろな具を入れて揚げる料理。いろいろな野菜のマリネと一緒に食べます。世界には、たくさんのおいしい料理があることをいろいろな国の人方が教えてくれます。

新美



公益社団法人
トレイディングケア

〒441-1303
愛知県高浜市小池町6-5-6
TEL 0566-57-7700
FAX 0566-55-1305